



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社ジェイエスエス
コード番号 6074 URL <https://www.jss-group.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
四半期報告書提出予定日 2023年2月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 06-6449-6121

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	6,100	6.1	419	35.2	419	36.6	279	70.1
2022年3月期第3四半期	5,751	22.8	310	313.9	307	297.1	164	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	72.38	
2022年3月期第3四半期	42.55	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	7,167	2,694	37.6
2022年3月期	7,256	2,460	33.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 2,694百万円 2022年3月期 2,460百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		5.00		6.00	11.00
2023年3月期		6.00			
2023年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,373	10.9	350	21.0	346	21.6	280	149.2	72.45

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	4,026,056 株	2022年3月期	4,026,056 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	158,403 株	2022年3月期	158,403 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	3,867,653 株	2022年3月期3Q	3,867,656 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、各種感染症対策や行動制限の緩和により、緩やかに持ち直しの動きが見られたものの、ロシアによるウクライナ侵攻長期化による資源価格の高騰、為替相場の円安進行など、依然として先行き不透明な状況となっております。

このような状況の中、当社におきましては秋の入会キャンペーンおよび冬季短期教室、体験会等による退会防止と入会者の確保を図りました。

また、近年の水道光熱費および燃料費高騰への対応として、2022年10月から燃料代として、1会員につき月額400円の徴収を実施し、収益の改善を図りました。

企画課外活動につきましては、行動制限がない状況において、旅行企画および選手強化合宿等、宿泊を伴うイベントを再開した他、自社施設内で行う練習会等を地域の感染状況に応じて実施することで収益の確保に努めました。

その他の営業施策につきましては、大人会員集客の施策として、国内特許を取得した自社開発の水中バイク「Jパドルバイク」に水中トランポリン、水中ウォーキングプログラムを合わせたオリジナルの水中運動プログラム「パイポリン&ウォーク」について、体験会等の販促および一部事業所において有料プログラムの提供を行いました。

また、2022年4月に中高生を対象とした、楽しく水泳に取り組むことで仲間づくりを支援し、ストレス解消により勉強への集中力を高める事などをコンセプトとしたクラス「JSS部」を開設し、小学校卒業を機に退会する傾向がある高学年の在籍延長と、既にスイミングを卒業した元会員に対する再入会へ向けた取り組みを進めました。

選手強化面におきましては、2022年10月の第64回日本選手権(25m)水泳競技大会において、難波実夢選手(JSS/近畿大学)が800m自由形で優勝、400m自由形で優勝、200m自由形で8位、赤瀬紗也香選手(ANAAS/JSS)が100m背泳ぎで2位、200m背泳ぎで2位、養日聖選手(JSS大原)が50m背泳ぎ4位で高校新記録、中島千咲代選手(JSS東京/法政大学)が800m自由形で4位、400m自由形で5位となりました。

また、同年12月の競泳ジャパンオープン2022(50m)において難波実夢選手が800m自由形で優勝、400m自由形で優勝、200m自由形で6位、中島千咲代選手が1500m自由形で5位、養日聖選手(JSS大原)が50m背泳ぎで6位、寛嶋尚二選手(JSS深井)が200mバタフライで7位となりました。

同年12月の第16回FINA世界水泳選手権(25m)において、難波実夢選手(JSS/近畿大学)が800m自由形3位で日本新記録、1500m自由形で準優勝となりました。

発達支援事業(JSS水夢)につきましては、2014年9月に開設、2021年4月にJSS山本スイミングスクール(大阪府八尾市)の隣接地へ移転を行って以降、児童発達支援および放課後等デイサービス事業を通じ、子供達に対する個別支援を行う事で地域に貢献をしながら順調な運営を行いました。

また、2022年12月には2事業所目となるJSS水夢北神戸(神戸市北区)を開設しました。

人材の育成および確保につきましては、近年人材獲得競争が激化するスイミングスクール業界において、求職者および従業員に対し、スイミングスクール運営企業で唯一の上場企業としての強みを生かした魅力ある労働環境の整備や教育環境の強化に努めました。

また、人材確保の取り組みとして、専門学校でスポーツ産業への従事を目指す学生に対し、当社事業の大人向け水中運動プログラムを体験する機会を設ける等、将来の当社就職希望者の発掘に向けた取り組みを実施いたしました。

日本テレビホールディングス株式会社との業務提携の状況につきましては、同社100%子会社である株式会社ティップネス(以下「ティップネス」)との協業について、両社のノウハウ・経営資源を持ち寄ることで、両社の企業価値向上に資する効果的なシナジーをさらに強力に推進するため、以下の施策を進めてまいりました。

<ティップネスとの主な協業内容>

○JSS&Tipness関西マスターズ大会の開催

新たな取り組みとして、2022年10月29日に当社とティップネス社2社合同によるJSS&Tipness関西マスターズ大会を開催いたしました。

○オンラインフィットネス配信サービス「トルチャ」の提供

ティップネスが持つオンラインフィットネス配信サービス「トルチャ」を当社会員およびその家族向けに提供し、顧客満足度向上とコロナ禍における施設に頼らない収益確保策の一つとしました。

○JSSキッズファミリープラン

両社が近隣に商圈を持つ事業所において当社子供会員の家族が割引価格でティップネスの事業所を利用出来る「JSSキッズファミリープラン」を設定し、顧客満足度向上に繋がるものとなりました。

○水中バイク、水中トランポリン体験会の実施

当社開発の水中バイクおよび水中トランポリン、水中ウォーキングプログラムを合わせた、オリジナル性の高い水中運動プログラムの体験会をティップネスの事業所にて実施。ティップネス大人会員へ当社の新たな大人向けプログラムを提供する事で、当社に対する意見を収集し、更なるサービス力の向上を図り、今後の社外販売に向けた取り組みといたしました。

○協業会議および分科会の定期開催

当社とティップネス社との情報交換の機会として、協業会議および各業務、テーマに沿ったより細分的な会議体としての分科会を実施しております。

○その他

商材や備品、電力等エネルギーの共同購入によるコスト削減や人事採用の情報交換等、両者の強みとスケールメリットを活かした様々な分野におけるシナジー効果を生み出す取り組みを協議し、実施するとともに、更なる施策の準備を進めてまいりました。

このような営業施策の結果、当第3四半期末における全事業所の会員数は91,930人（前年同期比2.8%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は6,100百万円（前年同期比6.1%増）、営業利益419百万円（前年同期比35.2%増）、経常利益419百万円（前年同期比36.6%増）、四半期純利益279百万円（前年同期比70.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ89百万円減少し、7,167百万円となりました。これは主に、建物（純額）が118百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末に比べ322百万円減少し、4,472百万円となりました。これは主に、長期借入金424百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末に比べ233百万円増加し、2,694百万円となりました。これは主に、利益剰余金が四半期純利益の計上等により233百万円増加したことによるものであります。

なお、当社はスイミングスクール運営事業の単一事業であるため、セグメント別、事業部門別の記載を行っておりません。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2022年5月13日に公表しました業績予想から修正を行っておりません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304,021	1,377,633
受取手形、売掛金及び契約資産	96,011	110,329
商品	109,980	106,793
その他	68,577	96,902
貸倒引当金	△1,387	△1,648
流動資産合計	1,577,203	1,690,011
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,088,354	2,969,547
土地	1,537,640	1,537,640
その他（純額）	164,253	142,773
有形固定資産合計	4,790,248	4,649,961
無形固定資産	16,512	13,548
投資その他の資産		
敷金及び保証金	672,576	684,799
その他	223,894	152,645
貸倒引当金	△23,888	△23,888
投資その他の資産合計	872,582	813,556
固定資産合計	5,679,342	5,477,065
資産合計	7,256,546	7,167,076
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	184,344	168,334
短期借入金	150,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	578,654	578,558
未払法人税等	72,837	44,064
未払消費税等	147,761	260,320
前受金	524,296	540,261
賞与引当金	65,733	—
その他	515,095	605,463
流動負債合計	2,238,721	2,347,001
固定負債		
長期借入金	2,167,011	1,742,068
退職給付引当金	79,176	70,789
資産除去債務	268,615	270,623
その他	42,089	42,140
固定負債合計	2,556,892	2,125,621
負債合計	4,795,614	4,472,623
純資産の部		
株主資本		
資本金	330,729	330,729
資本剰余金	125,665	125,665
利益剰余金	2,104,708	2,338,230
自己株式	△100,171	△100,171
株主資本合計	2,460,931	2,694,453
純資産合計	2,460,931	2,694,453
負債純資産合計	7,256,546	7,167,076

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	5,751,421	6,100,959
売上原価	4,781,978	4,983,136
売上総利益	969,442	1,117,823
販売費及び一般管理費	659,091	698,277
営業利益	310,351	419,545
営業外収益		
受取利息	422	381
貸倒引当金戻入額	34	—
退職給付引当金戻入額	—	1,224
助成金収入	1,346	1,217
受取事務手数料	—	3,246
生命保険配当金	941	911
その他	1,056	737
営業外収益合計	3,799	7,718
営業外費用		
支払利息	6,510	5,695
和解金	—	1,500
その他	268	108
営業外費用合計	6,779	7,303
経常利益	307,372	419,960
特別損失		
固定資産除却損	162	275
新型コロナウイルス感染症による損失	65,450	—
特別損失合計	65,613	275
税引前四半期純利益	241,758	419,685
法人税、住民税及び事業税	27,810	55,821
法人税等調整額	49,375	83,929
法人税等合計	77,186	139,750
四半期純利益	164,571	279,934

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社はスイミングスクール運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。